

## 令和5年度ネットリサーチ「男女共同参画に関する意識」に関する調査結果報告書

### ■結果のポイント

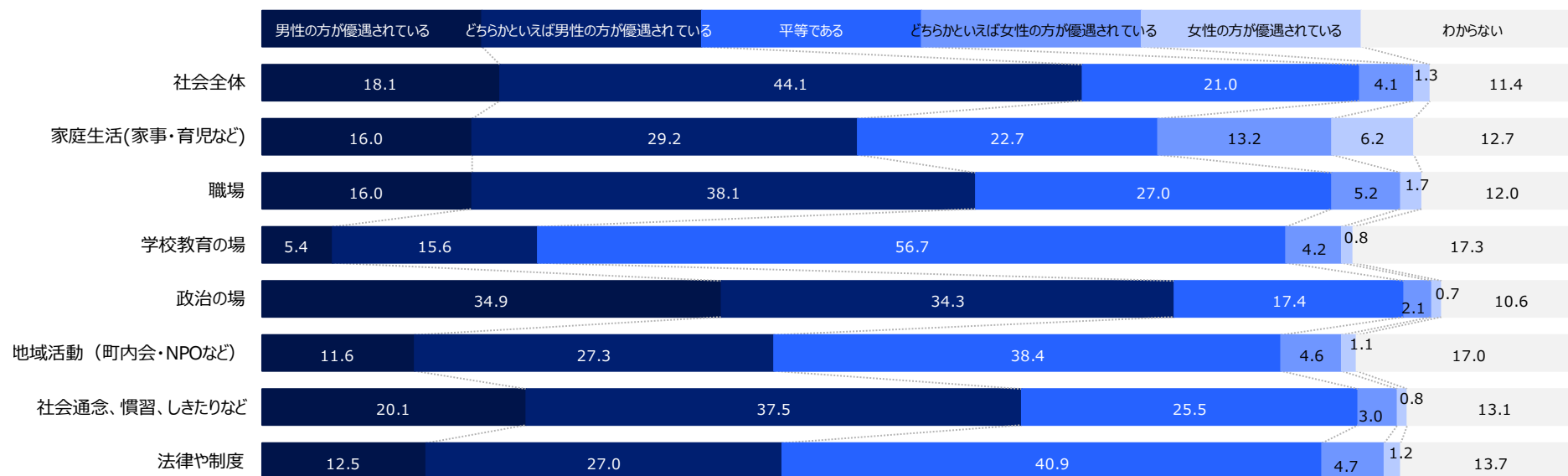
- 女性が職業をもつことに対する考え方について、「こどもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が47.9%で最も高く、「わからない」が17.7%と続く。
- 男性の育児休業取得に対する課題について、「職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない」が55.8%で最も高く、「休業中の賃金補償」が44.2%と続く。
- 男女共同参画実現に向けた効果的な取組について、「保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活の両立支援」が45.5%で最も高く、「関係する制度の制定や見直し」が44.9%と続く。

### ■調査結果の概要

#### 1 分野別の男女の地位の平等感

- ◇ 「社会全体」について、「男性の方が優遇されている（18.1%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（44.1%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が62.2%となっている。
- ◇ 「家庭生活(家事・育児など)」について、「男性の方が優遇されている（16.0%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（29.2%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が45.2%となっている。
- ◇ 「職場」について、「男性の方が優遇されている（16.0%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（38.1%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が54.1%となっている。
- ◇ 「学校教育の場」について、「平等である」が56.7%となっている。
- ◇ 「政治の場」について、「男性の方が優遇されている（34.9%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（34.3%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が69.2%となっている。
- ◇ 「地域活動(町内会・NPOなど)」について、「男性の方が優遇されている（11.6%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（27.3%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が38.9%となっている一方、「平等である」が38.4%となっており、同程度の割合となっている。
- ◇ 「社会通念、慣習、しきたりなど」について、「男性の方が優遇されている（20.1%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（37.5%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が57.6%となっている。
- ◇ 「法律や制度」について、「平等である」が40.9%となっている一方、「男性の方が優遇されている（12.5%）」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている（27.0%）」を合わせた【男性の方が優遇されている】が39.5%となっており、同程度の割合となっている。

Q1.あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの項目についてあてはまるものを選んでください。



	n	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
社会全体	100.0 1000	18.1 181	44.1 441	21.0 210	4.1 41	1.3 13	11.4 114
家庭生活(家事・育児など)	100.0 1000	16.0 160	29.2 292	22.7 227	13.2 132	6.2 62	12.7 127
職場	100.0 1000	16.0 160	38.1 381	27.0 270	5.2 52	1.7 17	12.0 120
学校教育の場	100.0 1000	5.4 54	15.6 156	56.7 567	4.2 42	0.8 8	17.3 173
政治の場	100.0 1000	34.9 349	34.3 343	17.4 174	2.1 21	0.7 7	10.6 106
地域活動(町内会・NPOなど)	100.0 1000	11.6 116	27.3 273	38.4 384	4.6 46	1.1 11	17.0 170
社会通念、慣習、しきたりなど	100.0 1000	20.1 201	37.5 375	25.5 255	3.0 30	0.8 8	13.1 131
法律や制度	100.0 1000	12.5 125	27.0 270	40.9 409	4.7 47	1.2 12	13.7 137

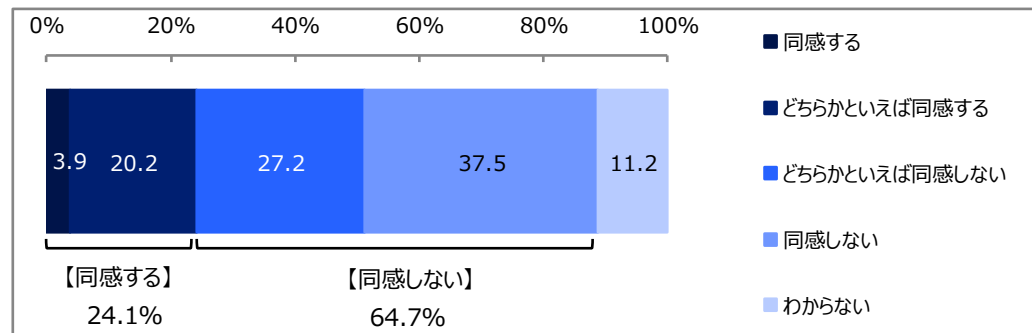
## 2 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に対する意識

◇ 「同感する (3.9%)」、「どちらかといえば同感する (20.2%)」を合わせた【同感する】が24.1%となっている。

◇ 一方、「どちらかといえば同感しない (27.2%)」、「同感しない (37.5%)」を合わせた【同感しない】が64.7%となっている。

Q2.「男性は仕事、女性は家庭」という考えがありますか、あなたはこの考えに同感しますか。次の中から自分の考えに一番近いものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
同感する	3.9	39
どちらかといえば同感する	20.2	202
どちらかといえば同感しない	27.2	272
同感しない	37.5	375
わからない	11.2	112

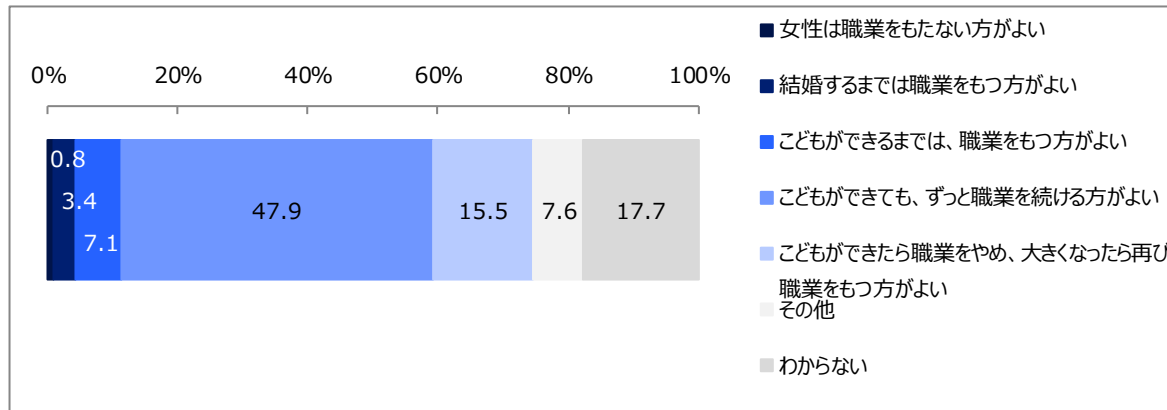


## 3 女性が職業をもつことに対する意識

◇ 「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が47.9%で最も高く、「わからない」が17.7%、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が15.5%と続く。

Q3.一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。次の中から自分の考えに一番近いものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
女性は職業をもたない方がよい	0.8	8
結婚するまでは職業をもつ方がよい	3.4	34
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	7.1	71
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	47.9	479
子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	15.5	155
その他	7.6	76
わからない	17.7	177

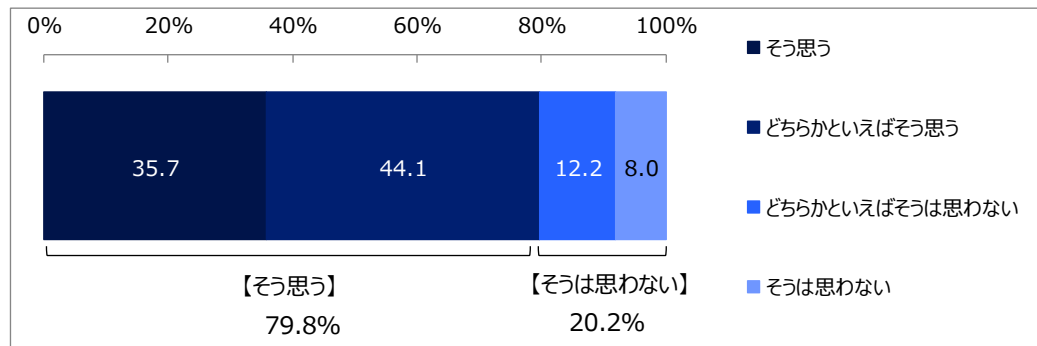


#### 4 職業生活において女性の活躍が進まない要因に対する意識

- ◇ 育児・家事などに男性よりも女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見について、「そう思う（35.7%）」、「どちらかといえばそう思う（44.1%）」を合わせた【そう思う】が79.8%となっている。
- ◇ 一方、「どちらかといえばそうは思わない（12.2%）」、「そうは思わない（8.0%）」を合わせた【そうは思わない】が20.2%となっている。

Q4. 育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見がありますが、あなたはこの意見について、どう思いますか。次の中から自分の考えに一番近いものを1つ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
そう思う	35.7	357
どちらかといえばそう思う	44.1	441
どちらかといえばそうは思わない	12.2	122
そうは思わない	8.0	80



【参考】 共働き世帯が1日の中で費やす時間（「令和3年社会生活基本調査結果（総務省）」より）

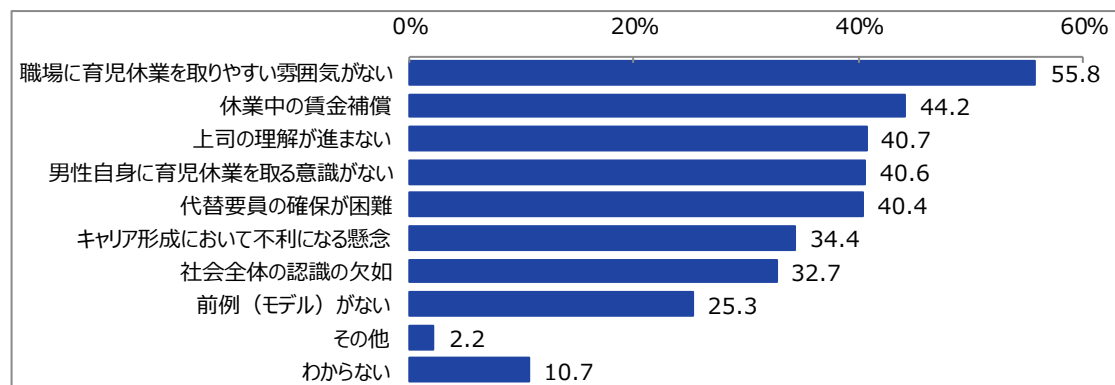
- 育児や介護、家事など※：男性53分、女性4時間18分 ※家事、介護・看護、育児、買い物の合計時間
- 仕事：男性6時間54分、女性4時間16分

#### 5 男性の育児休業取得に対する課題

- ◇ 「職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない」が55.8%で最も高く、「休業中の賃金補償」が44.2%と続く。

Q5. あなたは、男性が育児休業を取得するにあたり、課題は何だと思えますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

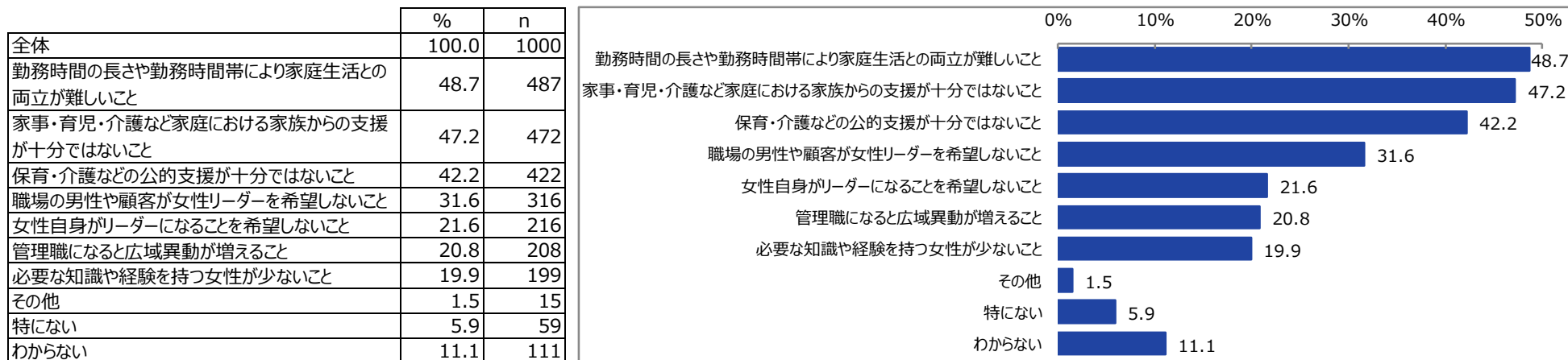
	%	n
全体	100.0	1000
職場に育児休業を取りやすい雰囲気がない	55.8	558
休業中の賃金補償	44.2	442
上司の理解が進まない	40.7	407
男性自身に育児休業を取る意識がない	40.6	406
代替要員の確保が困難	40.4	404
キャリア形成において不利になる懸念	34.4	344
社会全体の認識の欠如	32.7	327
前例（モデル）がない	25.3	253
その他	2.2	22
わからない	10.7	107



## 6 女性がリーダーとして活躍する際の障害

◇ 「勤務時間の長さや勤務時間帯により家庭生活との両立が難しいこと」が48.7%で最も高く、続いて「家事・育児・介護など家庭における家族からの支援が十分ではないこと（47.2%）」、「保育・介護などの公的支援が十分ではないこと（42.2%）」等となっている。

Q6.あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性がリーダーとして活躍する際に障害となるものは何だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



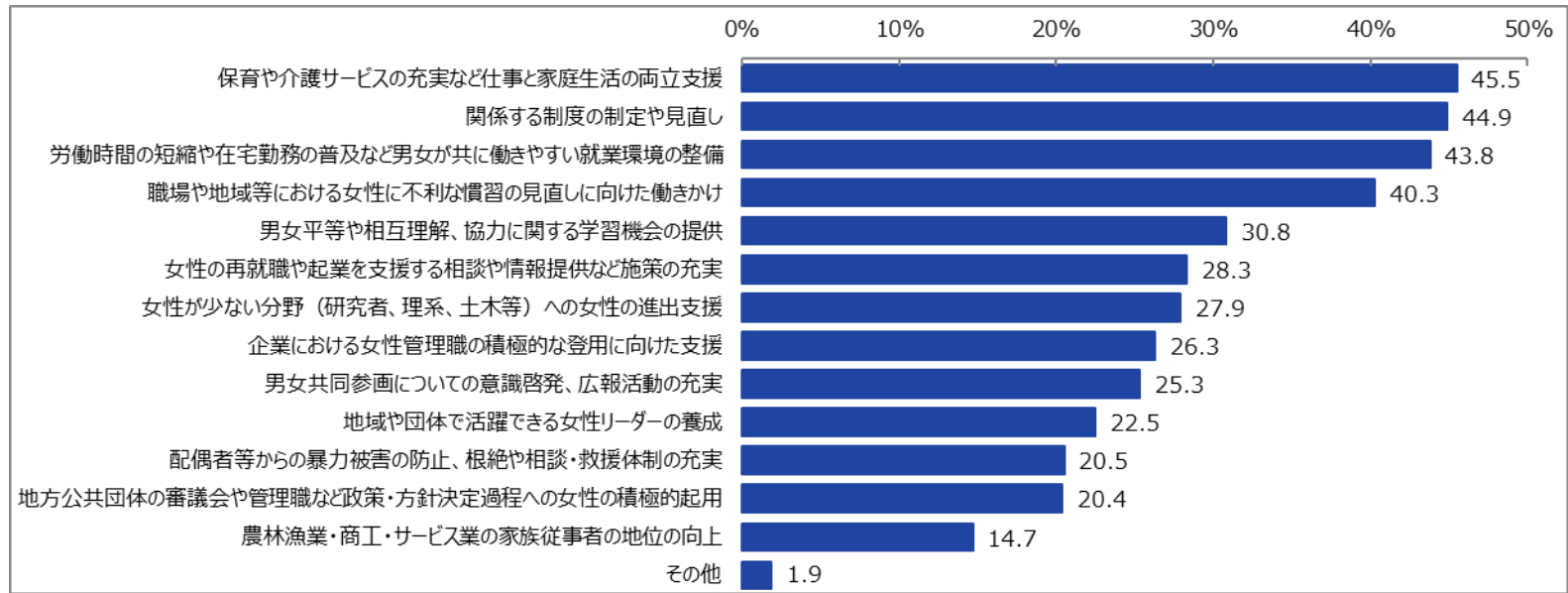
## 7 男女共同参画実現に向けた効果的な取組

◇ 「保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活の両立支援」が45.5%で最も高く、「関係する制度の制定や見直し」が44.9%と続く。

Q7.「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」です。

男女共同参画社会を実現するためには、県や市町村は今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活の両立支援	45.5	455
関係する制度の制定や見直し	44.9	449
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女が共に働きやすい就業環境の整備	43.8	438
職場や地域等における女性に不利な慣習の見直しに向けた働きかけ	40.3	403
男女平等や相互理解、協力に関する学習機会の提供	30.8	308
女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供など施策の充実	28.3	283
女性が少ない分野（研究者、理系、土木等）への女性の進出支援	27.9	279
企業における女性管理職の積極的な登用に向けた支援	26.3	263
男女共同参画についての意識啓発、広報活動の充実	25.3	253
地域や団体に活躍できる女性リーダーの養成	22.5	225
配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実	20.5	205
地方公共団体の審議会や管理職など政策・方針決定過程への女性の積極的起用	20.4	204
農林漁業・商工・サービス業の家族従事者の地位の向上	14.7	147
その他	1.9	19



## ■調査の目的

茨城県では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を目指している。男女の地位の平等感や家事・育児分担、女性活躍の推進など、男女共同参画に関する意識について調査し、今後の施策推進の参考とする。

## ■実施概要

- ・実施期間：令和6年1月26日～2月5日
- ・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和5年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		114	245	94	359	188	1,000
性別	男性	59	125	50	185	99	518
	女性	55	120	44	174	89	482
年代別	18～29歳	18	41	16	68	33	176
	30歳代	17	42	16	62	30	167
	40歳代	23	55	21	83	41	223
	50歳代	28	57	21	79	42	227
	60歳代	28	50	20	67	42	207

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。